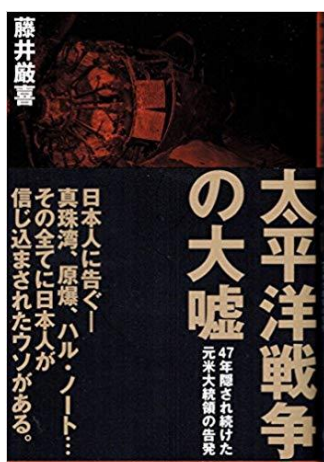


1 始めに

日米戦争の開戦については、ルーズベルト大統領の陰謀説が、多くの状況証拠を傍証として流布されているが、本書では、ルーズベルトの前任者であるフーバー大統領の著作を参考に、それを実証しようとしている。

自虐史観、ルーズベルト史観が世界のジャーナリズムでは主流ではあるが、今一度踏み止まって考えてみるのが重要だ。ジャーナリズムが宣伝する説を盲信するのではなく、己の頭で考えてみるのが肝要だ。その参考になる書、それが藤井氏の書だ。

2 書籍紹介



著者 国際政治学者 藤井巖喜 (げんき)

(ハーバード大政治学博士課程修了、1952 生)

ダイレクト出版

定価 1800 円+税

173p

3 参考事項

- ①第 31 代 米国大統領 ハーバート・フーバー氏 (1874~1964) (フランクリン・ルーズベルト大統領の前任者) の大著「フリーダム・ビトレイド(Freedom Betrayed)」(裏切られた自由) が 2011 年 フーバー研究所から出版された。(邦訳は 2017 年春出版)

この本は、50 年近くの間出版されなかった。『と云うのも、この本は、アメリカ人が一般に信じている第二次世界大戦論、いわゆる一般に言われているルーズベルト史観を真っ向から否定している内容だったからである。公にすれば、フーバーの名前も汚すことになるのではないかということを経験した人はいかに恐れたのではないかと思います。』(同書 18~19p)

②ルーズベルト史観

『要するに、第二次大戦と云うのは、ファシズム、軍国主義とデモクラシーの戦いであったんだという訳です。アメリカをはじめとする連合国が、日本の軍国主義、ドイツのナチズム、イタリアのファシズムをやっつけたのは全く正しい、正義の戦いであったという歴史観が…』(同書 19p)

③ルーズベルト大統領 3 つの大罪(同書 133p~134p)

- 1 : 日米戦争は、時の米大統領ルーズベルトが日本に向けて仕掛けたものであり、日本の侵略が原因ではない。

2 : 41 年の日米交渉では、ルーズベルトは日本側の妥協を受け入れる意図は初めから全くなかった。彼は日本側の誠実な和平の努力をことごとく潰した。

3 : アメリカは 45 年に「原爆を投下せずに日本を降伏させることができたということだ。」「原爆投下の罪は、アメリカ人の良心の上に重くのしかかっている。」とまでフーバーは言っている。

*2 項関連 『41 年の日米交渉とは、』

1941 年 9 月 近衛首相は駐日米大使との会談で日米首脳会談の開催を熱望するも拒否される。

近衛の和平提案は、駐日米・英大使も強く実現を期待していた。米外交目的の殆どを達成可能、満州についても米権益に配慮

フーバーは、何故受け入れぬのか、常軌を逸していると批判

同書に曰く、開戦を回避する可能性がもう一つあったのは、41 年 11 月、天皇陛下が日米交渉を三か月凍結しようと提案した時だったでしょう。(同書 82p~84p)

④その他(目次の項目等から抜粋)

- 1 日本に対する宣戦布告なき戦争が静かに始まっていた。
- 2 スターリン、チャーチル、蒋介石とルーズベルトの関係
- 3 チャイナとキリスト教宣教師の奇妙な関係
- 4 フーバーとマッカーサーの会談(46年5月4日~6日)
フーバーの話に同意
- 5 無条件降伏の要求が戦争を無駄に長引かせ、より残酷なものに
- 6 原爆投下は、新世界におけるアメリカの覇権を誇示するものだった
- 7 徹底抗戦を叫ぶ陸軍統制派は、社会主義革命を望んでいた